

4. 子育ての状況と育児意識

4-1. 育児に関する意見

4-1-1. 『子育ては辛いことより楽しいことの方が多はずだ』に対する意見(Q9-⑤)

【男性】

子育ての楽しさに関しては、どのグループも6割～7割が認めているが、【継続独身】が相対的に少ない。

【女性】

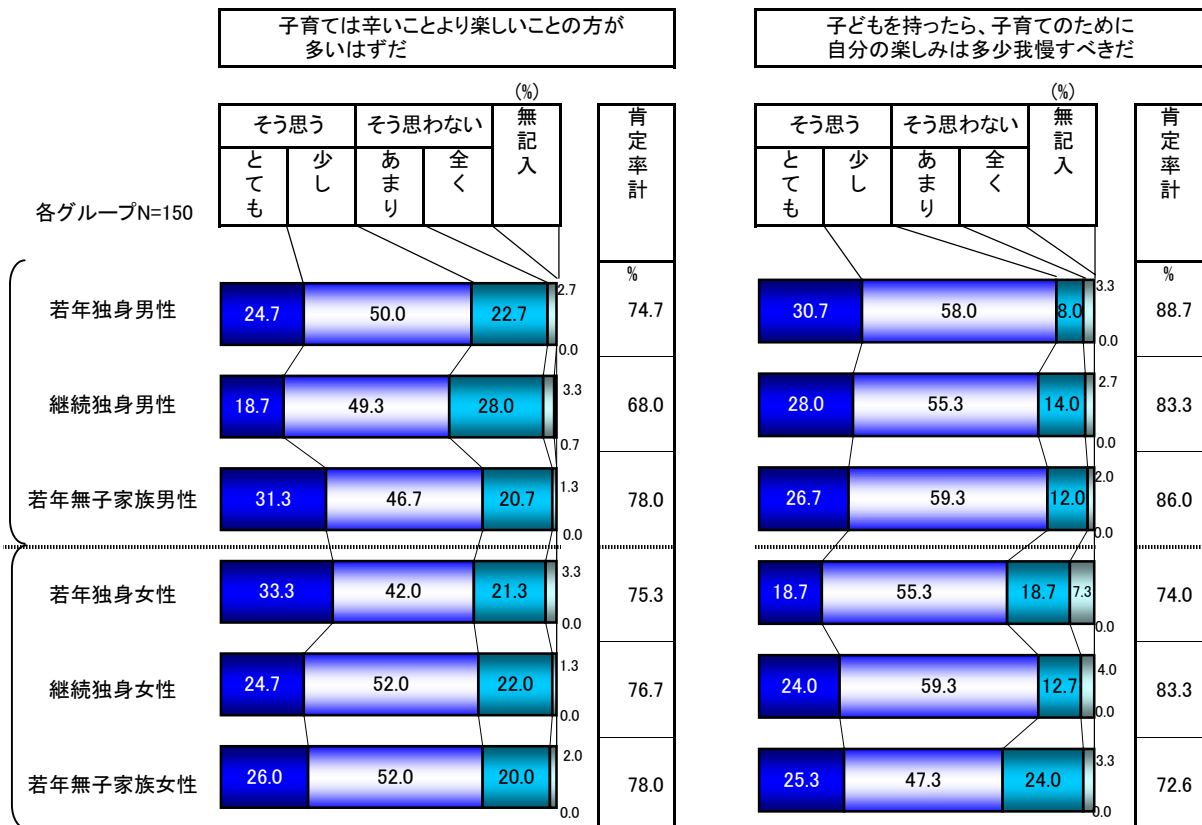
どのグループも7割強が認めている。特に、【若年独身】では、積極的肯定者が3割強と多い。

4-1-2. 『子どもを持ったら、子育てのために自分の楽しみは多少我慢すべきだ』に対する意見(Q9-⑥)

『子どもを持ったら、子育てのために自分の楽しみは多少我慢すべきだ』という意識は、女性より男性の方が強く、男性が8～9割程度の肯定率であるのに対し、女性は7～8割程度である。特に、【若年独身】、【若年無子家族】では、男女の意識差が大きい。

一方、【継続独身】では男女とも肯定率は83.3%であり、他グループのような男女差はない。

図表4-1-1. 育児に関する意見(単数回答)(基数:全体)



4-1-3. 『母親の仕事の有無にかかわらず、誰でも必要があれば

保育所やベビーシッターなどのサービスを利用すべきだ』に対する意見(Q9-⑩)

【男性】

どのグループも7割台が肯定しているが、積極的に肯定する人は3割前後に留まる。

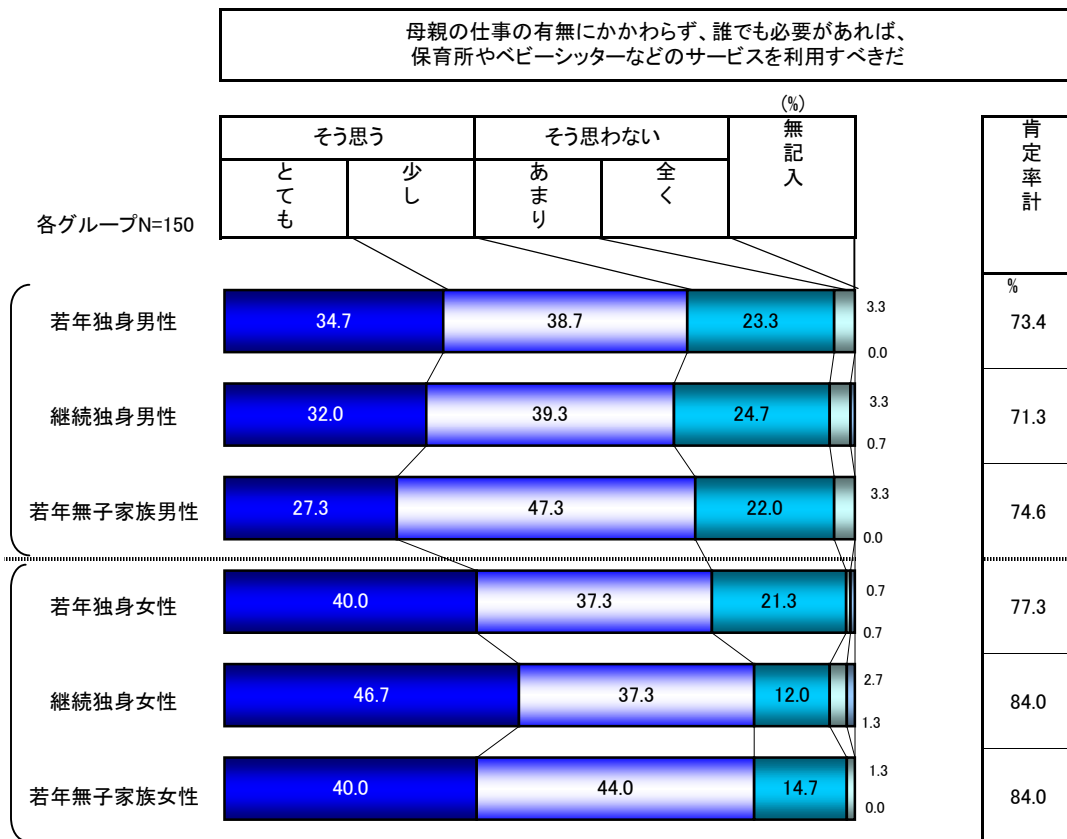
特に、【若年無子家族】には積極的な肯定者が少なく、3割に満たない。

【女性】

どのグループも大半が肯定しており、しかも積極的肯定者が4割～5割弱を占めている。

積極的肯定者が幾分多いのは、【継続独身】である。

図表4-1-2. 育児に関する意見(単数回答)(基数:全体)



4-2. 子どもに受けさせたい教育レベル(Q16)

自分の子どもにどの程度の教育を受けさせたいかという質問に対しては、「義務教育終了後は子どもの意思を尊重したい」という回答がどのグループでも5割程度と多い。次いで「大学までの教育を受けさせたい」という回答が2～3割と多くみられる。

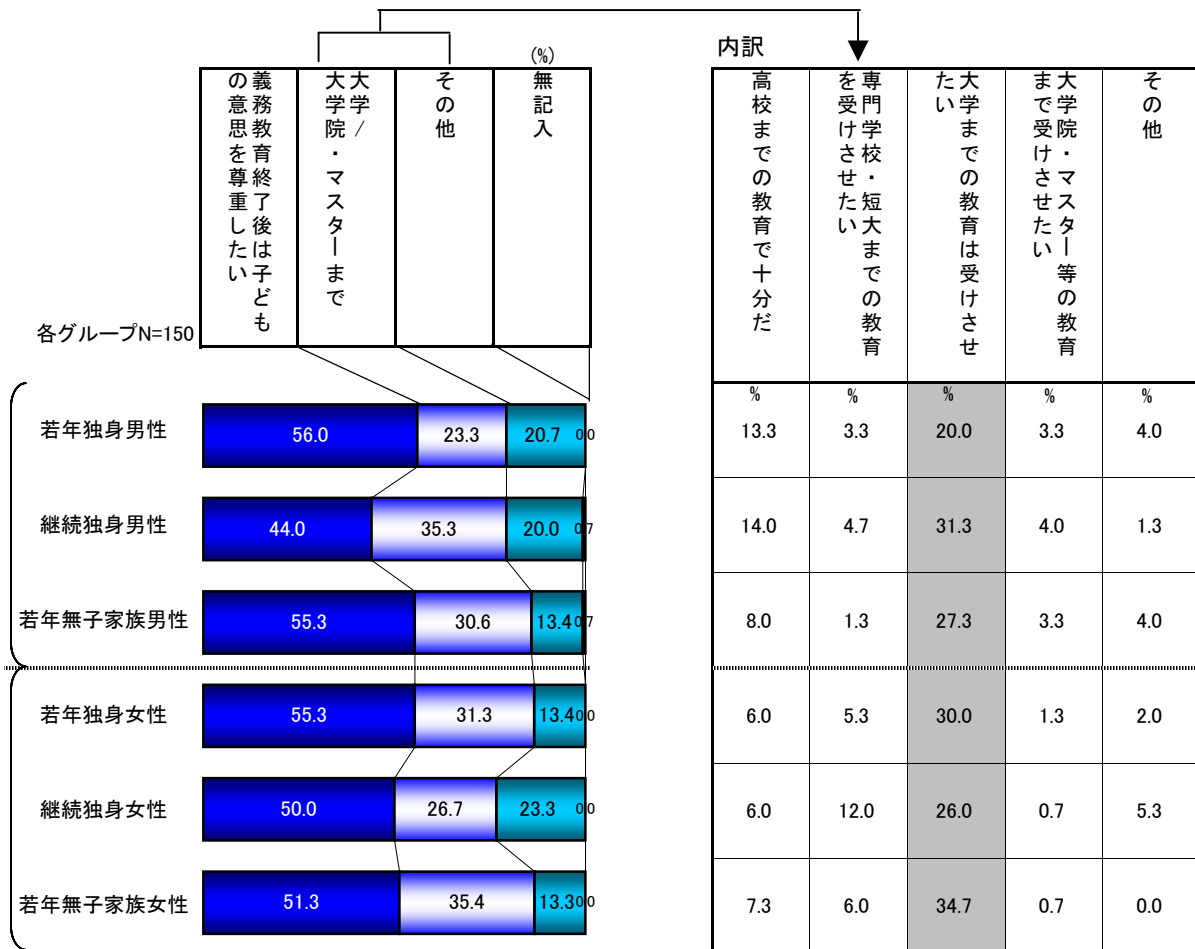
【男性】

【継続独身】は「義務教育終了後は子どもの意思を尊重したい」が44.0%と他のグループに比べやや低い割合となっている。また「大学までの教育は受けさせたい」という意識は、【継続独身】で、3割強と高い。

【女性】

【継続独身】で「大学までの教育は受けさせたい」という人は他グループに比べ少ない。

図表4-2. 子どもに受けさせたい教育レベル(単数回答)(基数:全体)



4-3. 親としての責任を果たし終える時期(Q17)

子どもがいくつになるまで親として責任をもつべきかという質問に対しては、「20歳まで」、「社会人になるまで」と「限度はない」という回答がどのグループでも多い。

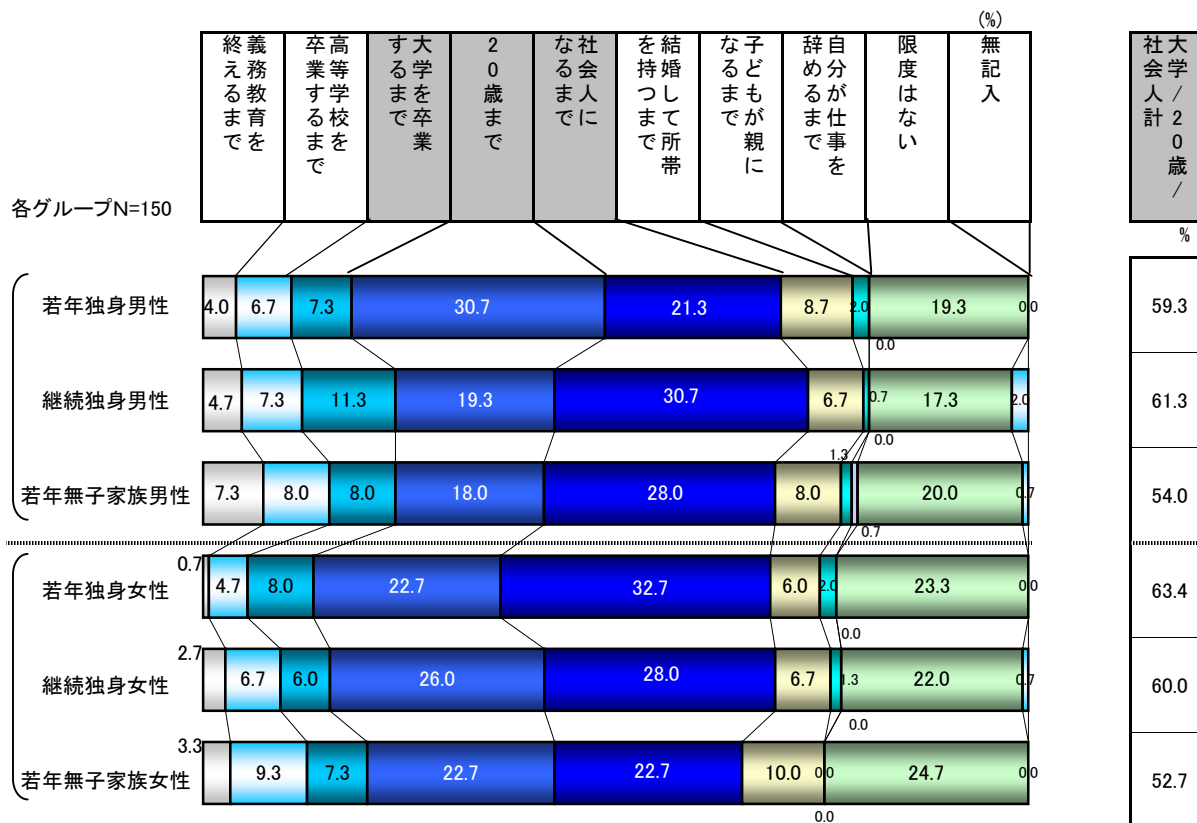
【男性】

グループ別にみると、【若年独身】では「20歳まで」が30.7%と最も多いが、【継続独身】および【若年無子家族】では「社会人になるまで」が最も多く、3割前後を占めている。

【女性】

【若年独身】、【継続独身】では「社会人になるまで」(【若年独身】:32.7%、【継続独身】:28.0%)、【若年無子家族】では「限度はない」(24.7%)が最も多い。

図表4-3. 親としての責任を果たし終える時期(単数回答)(基数:全体)



4-4. 子どもに身につけて欲しいこと(Q19)

【男性】

どのグループも「他人のことを思いやる心」について「礼儀正しさ、公共心」を身につけて欲しいと考えている。これらに加え、【若年無子家族】では「生きる力」、独身グループでは「知識・教養」が挙げられている。(特に、【継続独身】で「知識・教養」が多い)

【女性】

「他人のことを思いやる心」について「礼儀正しさ、公共心」が多いのは男性と同様である。独身女性が独身男性と異なっているのは「知識・教養」より、「生きる力」が多いことである。

なお、「責任感」や「創造性」は男女とも【若年独身】で高くなっている。

図表4-4. 子どもに身につけてほしいこと(回答3つまで)(基数:全体)

	男性			女性		
	若年独身	継続独身	若年無子家族	若年独身	継続独身	若年無子家族
各グループN=150						
他人のことを思いやる心	59.3	51.3	58.7	63.3	72.0	78.0
礼儀正しさ、人に迷惑をかけない公共心	42.7	47.3	42.0	51.3	42.7	52.0
知識・教養	28.0	32.7	23.3	16.0	28.0	21.3
生きる力	17.3	16.7	24.0	26.7	28.0	24.7
責任感	26.0	20.0	20.0	24.0	22.0	18.7
自分の意見を言える表現力	18.7	18.7	14.7	20.0	15.3	20.7
協調性	15.3	12.7	18.0	19.3	10.7	14.0
創造性	21.3	12.0	18.7	16.7	12.0	9.3
精神力	16.0	9.3	12.0	17.3	12.7	10.7
公正さ・正義感	14.0	16.0	16.0	6.0	10.7	8.7
実行力	16.7	11.3	12.7	6.0	11.3	10.0
ユーモアのセンス	6.0	6.7	10.0	10.7	8.0	11.3
国際性	3.3	3.3	4.0	6.7	8.0	6.0
独立心	3.3	7.3	3.3	5.3	4.0	2.0
目上の人を敬う精神	9.3	2.7	4.7	4.7	3.3	6.0
先祖を敬う精神	4.7	8.0	3.3	4.7	2.7	3.3
愛国心	2.7	1.3	1.3	2.0	0.7	0.7
その他	1.3	2.0	1.3	3.3	0.7	0.0
特になし	0.7	2.0	0.7	0.0	1.3	0.0

4-5. 子どもに関する不安(Q20)

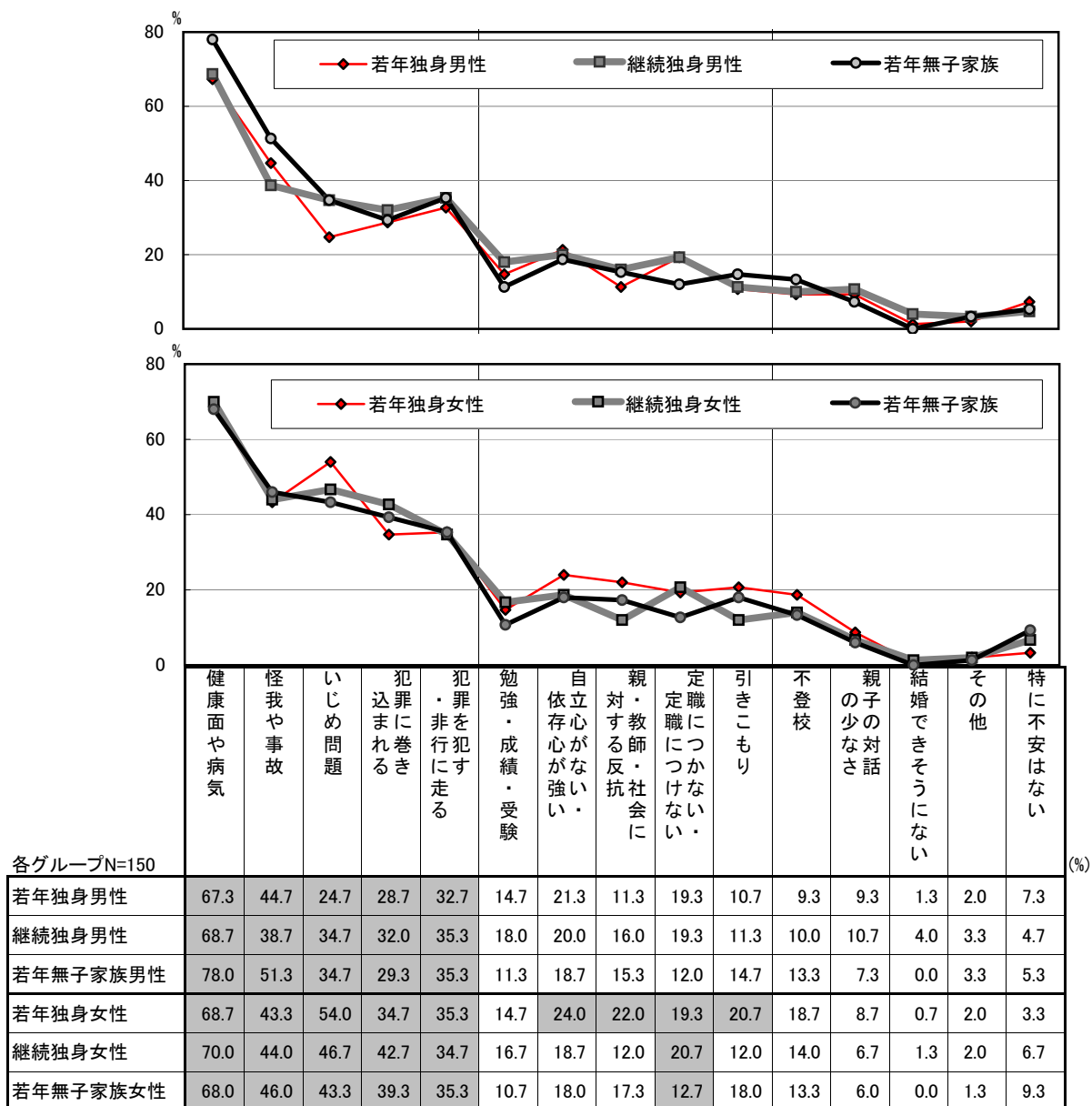
【男性】

子どもに関する最大の不安は「健康面や病気」「怪我や事故」であり、これらの不安は【若年無子家族】に強く見られる。これらについて多いのは「いじめ問題」や「犯罪に巻き込まれる」「犯罪を犯す」などである。

【女性】

男性とほぼ同じ不安が抱かれている。【若年独身】では「自立心がない」「親・社会に対する反抗」「引きこもり」などを挙げる人も比較的多い。また、【若年独身】だけでなく、【継続独身】も「定職につかない/つけない」ことも不安として挙げている。

図表4-5. 子どもに関する不安(複数回答)(基数:全体)



4-6. 理想の子ども数と今後持つつもりの子どもの数(Q21)

4-6-1. 理想の子ども数(Q21-①)

【男性】

どのグループでも理想の子ども数は「2人」と答える人が最も多いが、「3人」と答える人も、2割強ほど存在する。

【女性】

やはり「2人」と答えた人が最も多いが、「3人」と答えた人は3割強で、男性より多くなっている。

4-6-2. 今後、子どもをもうける意思(Q21-②)

【男性】

今後、子どもをもうけたい意向のある人は、【若年独身】及び【若年無子家族】では、8～9割に達するが、【継続独身】では6割弱に留まっている。最終的に持ちたい子ども数も平均「1.3人」であり、理想との乖離が大きい。

【女性】

男性と同傾向で、【継続独身】の子どもをもうける意向率は男性より更に低い。

また、理想の子ども数と最終的に持ちたい子ども数との間に大きな乖離がある。

図表4-6. 理想の子ども数、今後子どもをもうける意思(各単数回答)(基数:全体)

各グループ N=150	理想の子ども数					今後 もうける 子どもを もうける 意向率	今後もうける 予定の子ども数		平均子ども数			理想より 少ない 子どもの 比率が
	1 人	2 人	3 人	4 人 以上	子 ど も う け た は く な い		1 人	2 人 以上	理 想 の 人 数	持 つ つ も り の 人 数	理 想 と 持 つ つ も り の 差	
若年独身男性	3.3%	66.0%	24.0%	1.4%	5.3%	82.0%	6.0%	76.1%	2.13	1.78	0.35	24.7%
継続独身男性	4.7	50.7	26.0	3.4	15.3	56.0	6.0	50.0	1.98	1.33	0.65	50.0
若年無子家族男性	6.0	59.3	28.7	3.3	2.7	90.0	14.7	75.3	2.25	1.79	0.46	36.0
若年独身女性	7.3	54.0	30.7	2.7	5.3	86.0	12.0	74.0	2.19	1.73	0.46	37.3
継続独身女性	5.3	49.3	32.7	3.3	9.3	48.7	18.0	30.7	2.15	1.11	1.04	68.7
若年無子家族女性	6.0	54.7	30.7	4.0	4.7	92.7	23.3	69.3	2.23	1.76	0.47	40.7

4-7. 今後持つ予定の子ども数が理想より少ない理由(Q22-SQ)

子どもを持たない理由や理想の人数の子どもを持たない理由として、「経済的負担が大きいから」は【若年独身】では5割程度、【若年無子家族】では6～7割で最大の理由となっている。

【男性】

【継続独身】では「経済的負担が大きいから」(29.3%)と並んで「結婚する気がないから」(28.0%)が多く、「自分の人生を生きるのに精一杯だから」(25.3%)、「子どもを育てる自信がないから」(20.0%)と続いている。

【女性】

【継続独身】では「高年齢出産になるから」(56.3%)が最大の理由であり、「結婚する気がない」(32.0%)がこれに続いている。

図表4-7-1. 今後持つ予定の子ども数が理想より少ない理由・ベスト5(複数回答)

(基数:理想より持つ予定数が少ない人および子どもは持たない人)

		若年独身家族		継続独身家族		若年無子家族				
		男性n=37	女性n=56	%	男性n=75	女性n=103	%	男性n=54	女性n=61	%
男性	1位	経済的負担が大きいから		45.9	経済的負担が大きいから		29.3	経済的負担が大きいから		63.0
	2位	時間のゆとりがなくなるから		16.2	結婚する気がないから		28.0	将来が子どもにとってよい環境とは思えない		13.0
	3位	自分の人生を生きるのに精一杯だから		16.2	自分の人生を生きるのに精一杯だから		25.3	子どもができないから		11.1
	4位	結婚する気がないから		16.2	子どもを育てる自信がないから		20.0	心理的負担が大きいから		11.1
	5位	心理的負担が大きいから		13.5	健康・体力に自信がないから		16.0	自分の人生を生きるのに精一杯だから		11.1
女性	1位	経済的負担が大きいから		50.0	高年齢出産になるから		56.3	経済的負担が大きいから		67.2
	2位	健康・体力に自信がないから		28.6	結婚する気がないから		32.0	子どもができないから		18.0
	3位	高年齢出産になるから		23.2	経済的負担が大きいから		26.2	子どもを育てる自信がないから		18.0
	4位	子どもを育てる自信がないから		14.3	健康・体力に自信がないから		26.2	時間のゆとりがなくなるから		16.4
	5位	自分の人生を生きるのに精一杯だから		14.3	子どもを育てる自信がないから		14.6	健康・体力に自信がないから		14.8

図表4-7-2. 今後持つ予定の子ども数が理想より少ない理由(複数回答)

(基数:理想より持つ予定数が少ない人および子どもは持たない人)

(%)

	男性			女性		
	若年 独身 n=37	継続 独身 n=75	若年 無子 家族 n=54	若年 独身 n=56	継続 独身 n=103	若年 無子 家族 n=61
経済的負担が大きいため	45.9	29.3	63.0	50.0	26.2	67.2
高年齢出産になるから	0.0	12.0	9.3	23.2	56.3	13.1
健康・体力に自信がないから	5.4	16.0	5.6	28.6	26.2	14.8
子どもができないから	0.0	4.0	11.1	0.0	1.9	18.0
心理的負担が大きいため	13.5	13.3	11.1	8.9	9.7	14.8
時間のゆとりがなくなるから	16.2	14.7	5.6	12.5	5.8	16.4
将来が子どもにとってよい環境とは思えない	8.1	16.0	13.0	8.9	13.6	13.1
子どもを育てる自信がないから	13.5	20.0	9.3	14.3	14.6	18.0
自分の人生を生きるのに精一杯だから	16.2	25.3	11.1	14.3	10.7	11.5
家が狭いから	0.0	4.0	5.6	7.1	1.9	4.9
結婚する気がないから	16.2	28.0	0.0	8.9	32.0	0.0
末子が定年退職までに成人して欲しいから	5.4	4.0	7.4	3.6	1.9	3.3
配偶者の育児への協力が期待できないから	0.0	0.0	3.7	0.0	0.0	6.6
他にやりたいことがあるから	13.5	4.0	5.6	8.9	6.8	8.2
夫婦2人だけの生活を楽しみたいから	2.7	6.7	11.1	3.6	4.9	11.5
配偶者との性関係がなくなったから	0.0	0.0	3.7	0.0	0.0	3.3
もともと子どもが好きではないから	10.8	8.0	3.7	1.8	3.9	8.2
自分の仕事に差しかえるから	2.7	2.7	3.7	8.9	1.0	4.9
近くに保育所や、預けられる親がないから	0.0	0.0	0.0	1.8	1.9	6.6
子どもを虐待してしまいそうだから	2.7	4.0	0.0	7.1	2.9	6.6
勤め先などが出産・育児に対して理解がない	0.0	1.3	3.7	3.6	1.0	3.3
その他	0.0	4.0	7.4	3.6	3.9	8.2
無記入	24.3	9.3	7.4	19.6	8.7	6.6

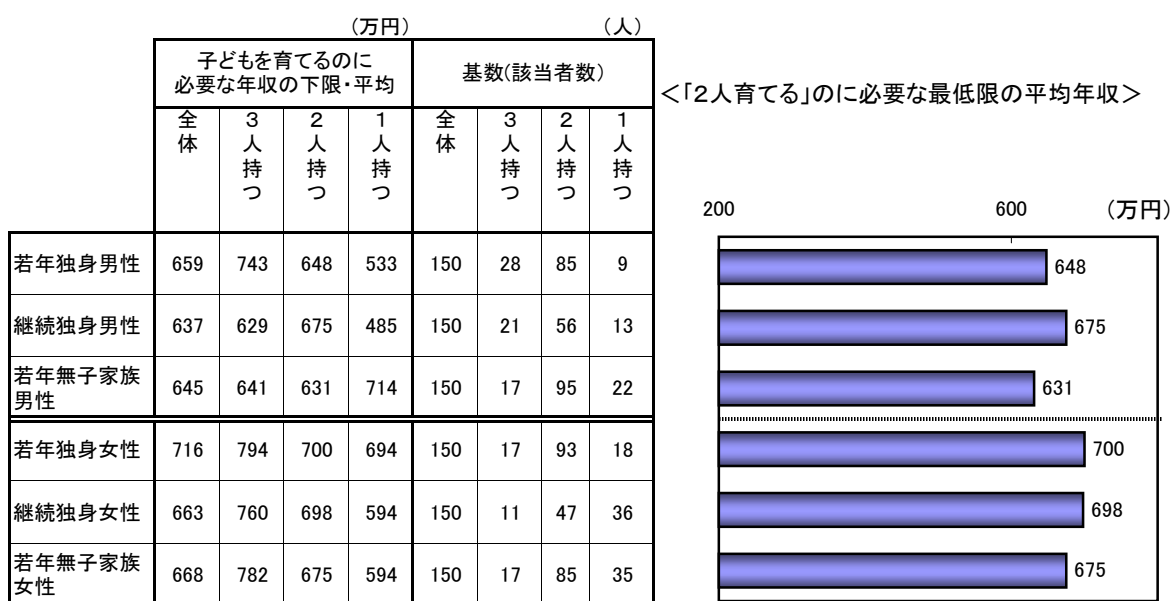
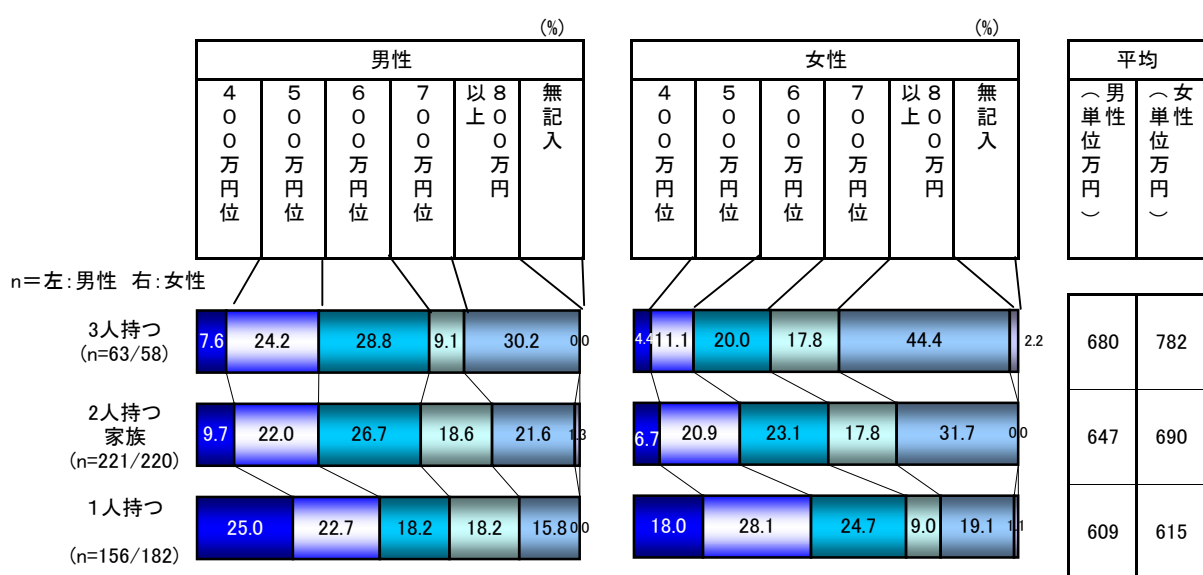
4-8. 持ちたい子ども数を育てるのに必要な最低限の年収(Q23)

平均金額は当然のことながら持ちたい子どもの数によって異なり、1人の場合は男性609万円、女性615万円、2人の場合は男性645万円、女性690万円、3人の場合は男性680万円、女性782万円となっており、女性が高めになっている。

最もサンプル数の多い“子ども2人”のケースで比較すると、男女とも【若年無子家族】より独身グループの方が想定金額(平均)はやや高めている。

図表4-8. 持ちたい子ども数を育てるのに必要な最低限の年収(単数回答)

(基数:子どもを持つ予定の人)



4-9. 第1子誕生の理想の年齢(Q24)

【男性】

第一子誕生の理想年齢は、男性の場合ほとどのグループでも「30～33歳」が4～5割を占め、最も多い。

【女性】

【若年独身】と【若年無子家族】は「28～29歳」と「30～33歳」がそれぞれ2～3割を占め、男性に比べるとやや若い年齢での誕生を理想としている。

【継続独身】は、「24～25歳」(28.0%)が最も多く、「30～33歳」(18.0%)がこれに次いで高くなっており、【若年独身】や【若年無子家族】に比べると、理想年齢は分散している。

理想年齢の平均は、男性は概ね30歳、女性は28～29歳であり、各グループ間の差はほとんどみられない。

図表4-9. 第1子誕生の理想の年齢(単数回答)(基数:全体)

